

2026年6月15日

報道関係者 各位

群大病院、患者説明動画支援ツールの運用を開始 — 動画活用による患者説明の標準化と理解向上へ —

群馬大学医学部附属病院は、患者説明をよりわかりやすく、標準化された形で提供するため、説明動画支援ツール「DICTOR」の運用を開始しました。

群大病院は、本取り組みを通じて、患者さんが自身の検査や治療について理解を深め、患者参加型医療と医療安全の一層の推進を目指します。

医師・スタッフ側

1 台本・スライド作成

- 普段の説明内容をテキスト化
- 補足資料を作成



2 アバター動画作成

- 自身の声と顔のアバターを使用
- システムに入力したテキストおよび資料から説明動画を生成



*説明テキストや、資料の内容自体を生成するものではありません。

患者さん側

1 視聴用バーコード・タブレット受け取り

- 院内のタブレットまたは視聴用の二次元バーコードを受け取り



2 動画視聴

- タブレットからそのまま視聴
- バーコードを読み取って視聴
- 家族に動画を共有



1. 本件のポイント

- 群大病院は、検査や治療などに関する説明をわかりやすく標準化するため、説明動画支援ツールの運用を開始しました。
- 患者さんは、院内での説明に加えて、自宅等でも説明動画を繰り返し確認できます。ご家族との情報共有にも活用できます。
- 定型的な説明を動画で確認できるようにすることで、対面説明では、患者さん一人ひとりの病状、不安、疑問に応じた説明や質疑応答に重点を置くことができます。

2. 本件の概要

近年、医療の高度化に伴い、検査や治療について患者さんへ説明すべき内容は増加し、専門的かつ複雑になっています。一方で、患者さんが説明内容を十分に理解し、納得したうえで医療を受けるためには、必要な情報をわかりやすく伝えることに加え、疑問や不安に丁寧に対応する体制が重要です。

そこで今回、本院では患者さんへの説明をよりわかりやすく、標準化された形で提供するため、説明動画の活用を開始しました。本運用では、説明動画支援ツール「**DICTOR**」を利用し、患者説明動画を作成します。本ツールを用いることで、専門的な動画制作技術がなくても説明動画を作成しやすくなり、さまざまな場面で必要となる説明内容の標準化を推進します。

動画では、イラストや図表等を用いながら、文字だけでは理解しにくい専門的な内容を視覚的に示します。これにより、患者さんが説明内容を具体的にイメージしやすくなります。また、本院の医師やスタッフの顔や声をもとに作成したアバター形式の動画により、患者さんにとって親しみやすく、普段の診療との連続性を感じながら、説明内容を確認できるようにします。多言語（英語、中国語、韓国語、タガログ語、スペイン語、ポルトガル語）にも対応しており、外国人患者に対しても、標準化された説明内容を届けやすい体制を整えます。

作成した説明動画は、患者さんのスマートフォン等でも視聴できます。患者さんは、院内での説明に加え、自宅等でも動画を繰り返し視聴することができ、ご家族とともに内容を確認することで、治療や検査等への理解を深めることが期待されます。また、説明動画を活用することで、説明内容の標準化を推進し、医療安全の向上にもつなげます。



図：実際の DICTOR の視聴画面

本院では、説明動画を医師等による対面説明を補完する補助資料として位置付けています。視聴後には、患者さんの理解状況を確認し、補足説明や質疑応答を行います。定型的な説明をあらかじめ動画で確認できるようにすることで、対面説明の場では、患者さん一人ひとりの病状、不安、疑問に応じた説明に重点を置くことができます。

本院は「安全・納得・信頼の医療」を掲げており、十分な説明を行い、患者さんとともに納得のいく治療法を選択することを重視しています。今後も、デジタル技術を適切に活用し、患者さんにとって安心・安全でわかりやすい医療提供体制の構築を進めてまいります。

3. 説明動画の活用例

群馬大学医学部附属病院 心臓カテーテル検査治療の説明



QRコードをカメラで読み取り、動画を視聴してください。

【本件に関するお問合せ先】

群馬大学昭和地区事務部医事課医療情報・デジタル変革係

TEL : 027-220-7838 E-MAIL : kk-miryos@ml.gunma-u.ac.jp

(報道機関からの対応用です。電話番号等の紙面への掲載はご遠慮ください。)

【取材に関するお問合せ先】

群馬大学昭和地区事務部総務課企画・広報係

TEL : 027-220-7895、FAX : 027-220-7720

E-MAIL : m-koho@ml.gunma-u.ac.jp